

当協会

企業紹介サービスをスタート

中国との取り引きを後押し

当協会は3月7日より、「中国企業紹介サービス」をスタートさせた。

中国への売り込みまたは中国から原材料および製品などの調達を希望し、中国との取り引きを新たに始めたい企業はもとより、すでに取り引きがあるがさらに事業内容を拡大したい企業を対象に中国企業を有料で紹介する。

2010年の日中貿易総額は3000億ドルの大台を突破し、また対中投資は42.42億ドル(中国商務部発表)など、日

中間のモノ、ヒトの流れは一段と活発化している。中国企業の技術力向上を受け、原材料および製品などの調達を希望する企業は増加傾向にある。また、日本国内の需要が頭打ちだとして、海外とくに大きな需要が見込める広大な中国に活路を求める企業が多い。

紹介する中国企業は、中国の政府機関傘下の関係部門が保有する約16万社にのぼる企業群から、希望に合う企業を選定して提供する。申し込みを受けた翌日

から起算し、7営業日以内に結果を報告する。

なお、紹介後の業務連絡、企業訪問などのバックアップ体制も整えている。

申し込み方法:当協会ホームページから申し込み書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえFAXまたはE-mailでお申し込みください。(http://www.japit.or.jp/)

問い合わせ:当協会・業務本部 田中(☎03-6740-8271、FAX03-6740-6160)費用などの詳細は、当協会ホームページをご覧ください。



サロン de 中国

江西婺源の農村 ③
唐辛子

村々の軒先に収穫した赤い唐辛子を乾燥させ、1年間の調味料として保存し、使われる。黒い屋根瓦、白壁に紅色が映える。(写真・文)東久継・写真

人見 豊氏

1960年代後半から若い女性に圧倒的人気のグループサウンズ「ザ・タイガース」の元ドラマー、元慶応高校教諭で、2月下旬に自伝を出版した人見豊(ひとみ・みのる)氏(下記図書紹介参照)。人見氏は慶応高校での中国語の授業では特に発音を重視して教えていた。同時に読解、書くことの大切さも強調する。極論と断りを入れながらも、「阿Qは話すことはできた。しかし、読み書きができず、悲惨な目にあった」と例を挙げている。会話に力を入れる余り総合的にコミュニケーション力がおろそかになる傾向があり、日本の外国語教育が中間がないと問題点を指摘している。

現在は北京と東京で半々の生活をしているが、明治期の文部省唱歌と中国の現代音楽について研究している。明治期に外国の歌が初めて日本に入り、それらの一部が唱歌となった。「旅愁」は日本の歌百選に入っ



ているが、元はアメリカの曲。中国では「送別」という題で歌われているが、清朝末期、日本に留学に来た李叔同氏がその旋律に感動し、中国語の歌詞を付けた。人見氏は「日本でも中国でも多くの人が『旅愁』は自分たちの歌と思っている。元がアメリカの曲だということを知らない。分断されているようだ」と説明する。明治期のいくつかの唱歌は中国に入った。人を引き付ける旋律だからだと述べ、良いものは、自分たちだけのものと考えず、共有すべきと訴える。音楽の歴史は文化交流の歴史と熱く語る。

中国のどの都市でもおそらく変わりはないと思うのだが、広州市でも市場(いちば)というものがいまだに人々の買い物を中心となっているようだ。広州市も他の中国の大都市と同じように金持ちの住む地域とそうでない人が住む地域とがはっきり別れている。どれほどお洒落で高級な地域で一見、高級感あふれるビルの中にもひっそりと市場があったりする。リッチな生活を営んでいる人々もそこで買い物をしているのだ。

市場の中にはたくさんの小さな店が立ち並んでいて、肉に野菜、魚に、豆腐や餃子などの食材から、広州の場合は花の都の名に相応しく生花が売られている。むろん連日沢山の買い物客で賑わっている。量り売りで売ら

れている市場の食材はどれもとても安価に感じられる。もっとも地元の人には言わせれば食材の値段はどんどん上昇しているようで、市場に通っていると実際にインフレが進



市場は鍋のため

行していることが容易に見て取れるようだ。

ところで私が市場に行く目的は唯一、鍋の食材を買いに行くことである。外国に住んでいるとよくあることだが、どうしても日本の味に餓える

時がある。酒飲みの私の場合は、ビールを飲みながら鍋をつつくという行為に対する禁断症状がそれにあたる。そこで禁断症状が出たときには近場の市場へと足を向ける。そんな私が市場で鍋の食材を入手する際にもっとも気にするのが豚肉。鍋と言えば、実は私はモツ鍋派である。だが、どういわけか市場には豚肉の内臓は売られていない。店の人によれば内臓は前日に言っておいてくれれば、売ってくれるという。しかし、禁断症状は時を選ばず突如起こるためにそれでは間に合わない。といわけで、苦肉の策で編み出した鍋が豚肉の脂身鍋。その広州発豚肉の脂身鍋の詳細についてはまた次回に紹介したいと思う。(フリーライター・程田聡哉)

近着の 図書紹介

■『ロング・グッバイのあとで』(瞳みのる著・集英社・1200円+税)

本書はグループサウンズ「ザ・タイガース」のドラマーだった瞳みのる氏の自伝である。

ザ・タイガース解散後、瞳氏は慶応大学、同大学院で中国文学を専攻し、2010年3月まで慶応高校で漢文と中国語を教えていた。中国に興味を持ったこと

について、祖父、父親が戦争で中国に行っていたこと山城高校定時制時代に選択科目として中国語を選んだことなどを挙げている。

瞳氏はこれまでの人生を振り返り、「随分無駄なことをしたり、無駄な時間を過ごしたと感ずけたりしたが、今思うと全てが必要であった。(中略)遠回りをしたから今の道を発見できたのだ。思うに人生に近道も遠回りもない」と(本書191頁)と述べている。(亜娥歩)

催物

●現代中国映画上映会

作品: シャングリラ (原題: 这儿是香格里拉)

日時: 3月19日(土)、26日(土) 18:55~(開場18:35)

交通事故で6歳の息子を突然失った季玲は悲しみにくれていた。事故の加害者との裁判は泥沼化し、夫との仲もこじれてしまった。

そんな折、息子が残したシャングリラの山の絵を見つ

けた彼女は息子が呼んでいる気がし、遙か雲南に出かけることにした。

雲南省を舞台にしたシリーズ作品。地元チベット族が聖なる山として崇める神秘的な梅里雪山の麓にある香格里拉県と台北で撮影された。劇場未公開作(特別上映を除く)で、DVD類も未発売。

費用: 会員=1200円、非会員=1600円(入会金600円) 同時入会可、有効1年 *事前申し込み、予約は不要

会場: 文京シビックホール 2F、小ホール)

問い合わせ: 現代中国映画上映会 (☎03-5689-3763) http://www1.parkcity.ne.jp/gentyuei/

中国の外国為替レート	外貨名	人民元
	100日本円	7.9368
	100米ドル	657.13
	100香港ドル	84.377
	100ユーロ	914.23

(中国人民銀行 3月10日発表)

~新たな広州、新たなチャンス~

広州-日本 産業協力推進会

4月1日(金) 10:00 受付開始 10:30~12:00 説明会 12:00~13:00 昼食会(立食)

ホテルニューオータニ東京「鶴の間・東」

東京都千代田区紀尾井町4-1 ☎03-3265-1111(代表)

主催: 中華人民共和国広東省広州市人民政府

実施: 広州市対外貿易経済合作局、広州市国際投資促進センター、广汽集団

協力: 日本国際貿易促進協会

後援: 信金中央金庫、日本貿易振興機構、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行

次第: (1) 開会、主催者・協力団体挨拶 (2) 担当者による説明 (3) 広州進出企業による紹介 (4) 質疑応答、閉会 (5) 昼食会(立食)

代表団主要メンバー: 陳明德広州市人民政府副市長、李越広州市対外貿易経済合作局副局長、曹智聡広州市国際投資促進センター主任など

申込み: 3月28日(月) 締切 ※定員150名になり次第、締め切らせていただきます

参加費: 無料

広州市は経済発展著しい広東省の省政府所在地として、中国対外開放の先駆者としての役割を發揮し続けています。自動車、電子、機械、IT、化学等の分野を中心に日本企業も数多く進出しています。昨年のアジア大会成功後もさらに、市を挙げて新たな飛躍を目指しています。本年は国家の「第12次五カ年計画」の始動にあわせ、広州市の第12次五カ年計画もスタートします。本推進会ではポストアジア大会及び12次五カ年計画期間中の「戦略的新興産業及び先端製造業分野における発展計画」を紹介するとともに、投資環境、優遇政策についてもご説明させていただきます。 ※会議は同時通訳で行います

申込み 日本国際貿易促進協会 業務本部 泉川
問合せ ☎03-6740-8271 FAX:03-6740-6160
E-mail: izumikawa@japit.or.jp